

【中学生の部】鹿児島県知事表彰 最優秀賞

「土砂災害を防ぐために」

鹿児島市立坂元中学校 1年 今村 夏子

豪雨によって家が流される。車が流される。橋が流される。道路に木が倒れ、人も車も通れなくなっている。7月に九州北部をおそった豪雨の災害のニュースにはとてもおどろいた。テレビの画面に映し出された映像は、まるで災害のパニック映画のようだった。同じ九州の福岡や大分でこんなことが起こっていたとは信じられなかった。豪雨による死者は、30人を超え今も行方不明の方がいる。雨が上がった後でも避難している人や、道路の復旧など8月に入ろうとしている今でも、被害が続いていることが新聞やテレビなどで伝えられている。家族でこのニュースを見てた時父が、

「鹿児島県でも24年前に、大規模な豪雨災害があったんだよ。」

と教えてくれた。8月6日に起きたので「8・6水害」と呼ばれているらしい。父や母の話聞きながら、これらの災害は決して人ごとではなく、私たちの町にもいつおきてもおかしくないのだと思った。日本には四季があり、季節ごとに様々な風景を楽しむことができる。雨や雪などによってもたらされる水も豊富で、豊かな自然を育てている。外国と比べても、飲み水や生活に必要な水で困ることはそう多くなく、ありがたい国だと思う。その反面、梅雨や台風時期には豪雨になることも多い。九州は台風の通り道だ。また、最近ではゲリラ豪雨と呼ばれる突発的で狭い地域に集中して降ることが多く、雨が下水の容量を超え、町にあふれだし、水害になることが多くなってきたと思う。鹿児島の地形は、火山噴火の影響でシラス台地が多く、雨が降ると地盤が崩れやすい地形だと聞いたことがある。そう考えれば、私たちのまわりは土砂災害にあう可能性が高い地域なのだともますます思えてきた。インターネットで調べてみると、土砂災害には、「土石流・がけ崩れ・地すべり」の災害があることが分かった。こんなことが身近で起こったらと思うと、とても怖い。あらためて水のかや自然の怖さを感じずにはいられなかった。

土砂災害について調べてから、街に出ると災害を防ごうと工事しているところに、自然と目が行くようになった。がけ崩れを防止するネットや、コンクリートで吹き付けるなどの工事、桜島でよく見かける土石流を流すための大きな溝などだ。私たちは、美しさと怖さがある自然と共存するために様々な工夫をしているのだということが分かった。また、以前読んだ本では、災害に強い山を作るためには、木を切るだけでなく植えることが大切で、どのような木をどのように植えるのかも大事だというような文章を目にしたことがある。工事だけではなく、自然をどう生かすかも大切なことだと思う。さらには、工事や植林などの面だけでなく、被害を少なくするために私が気を付けなければならないことはなにか考えるようになった。ハザードマップなどを見ると、「情報をもとに雨に注意する」や「避難場所を確認する」や「近くの地形から避難の仕方を考える」などが挙げられた。最近では気象情報についても、雨の降り方の細かい情報や注意報・警報などが出るので、私たち自身が雨に敏感になり危険をイメージすることが大切だと思う。加えて、みんなが安全に避難するためにも、自分の家の近所にはどんな人が住んでいるのか、避難するとき声をかけたり一緒に逃げた方がいいような高齢者や体の不自由な人がいないかなど、お互いのことをよく知ることが大切だと思う。今も心がけているけれど朝や夕方など近所の人に出会った時にあいさつや声をかけるなどして、つながりをもつことは必要だと思う。

自然と共存するためには、自然を怖がるだけでなく災害を起こさない、被害を最小限にする工夫をそれぞれができる中で考えることが大切だと思う。